

第1期中期目標に係る事業報告書

自 平成22年4月31日

至 平成28年3月31日

公立大学法人金沢美術工芸大学

I 全体概要

豊かな自然の中で固有の文化を育んできた金沢に所在する本学は、美術、工芸、デザインの分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、創造都市・金沢の発展の一翼を担うとともに、新たな芸術を世界に向けて発信する知と創造の拠点となることを目指し、平成 22 年度の公立大学法人化を機に、次に掲げる事項を基本に中期計画を策定し、大学のガバナンス体制の整備と教育システムの改革に意を用いて、その達成に努めてきた。

- 1 ものづくりの精神を受け継ぎ、次代を担う優れた人材の育成と新たな芸術の研究拠点となること。
- 2 蓄積された知的資源の社会還元に努めることにより、社会における創造の機会の拡大と芸術が社会に果たす役割を、大学自らが探し行動すること。
- 3 社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応できる簡素で効率的な運営体制を確立し、自主・自律の大学運営を目指すこと。

II 項目別概要

1 教育・研究

学士課程においては専攻にとらわれない多様な芸術表現を学ぶための共通の基礎科目を、大学院修士課程においては多様な学習需要に応えるための新たな共通選択科目を開設した。また、金沢市と連携協定を締結し、学生の県内定着率向上を目的に地元企業との就職情報交換会、企業インターンシップなどに取り組んだ。

研究に関しては、「平成の百工比照」事業で収集した資料の展覧会を開催しその成果を公開したほか、教員研究発表展、中国清華大学美術学院、韓国同徳女子大学等との交流展を開催し教員の研究成果を公開した。

2 社会連携

産学連携事業や地域連携事業を取り入れた教育プログラムを積極的に実践するとともに、地元商店街に開設した「アートベース石引」を拠点に地域の活性化への取り組みを進めた。また、金沢市立病院との「ホスピタリティアート・プロジェクト」を行い、医療と芸術分野の連携を図った。

3 業務運営等

大学運営を効果的かつ効率的に推進するため、理事長のリーダーシップを支える体制を整備するとともに法人職員採用計画に基づき市派遣職員から法人採用職員への切り替えを実施した。また、文部科学省や三谷研究開発支援財団の外部研究資金の確保に努めたほか、教育研究基金及び「かなびサポーター」制度を創設し市民が大学を支援しやすい環境を整えた。さらに、大学の VI（ビジュアル・アイデンティティ）計画を策定し、広報活動に反映させた。

Ⅲ 項目別の主な取り組み状況

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標(教育に関する目標)

(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標

【入試に関する項目】

- ・求める学生像や能力、適性等を明確にするため、アドミッションポリシー（学生の受け入れ方針）を作成した。入学試験の内容を毎年度検証し、その内容がアドミッションポリシーに基づいた選抜方法であることを確認した。また、各専攻においてアンケートによる入学試験の検証を行い、次年度以降の入学試験に反映させた。
- ・質の高い受験生確保のため、他大学の入学試験の日程を調査し、日本画専攻、彫刻専攻及びデザイン科において、一般選抜入学試験の日程を変更した。
- ・実技試験合格作品をオープンキャンパスやホームページ上で公開した。また、各地で開催される進学相談会において、採点評価基準とともに公開した。

【カリキュラムに関する項目】

- ・学士課程教育にあつては、カリキュラム改編に合わせ、新たにカリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）を作成した。さらに大学全体の教育目標とディプロマポリシー（学位授与方針）を作成した。
- ・専攻にとらわれず多様な芸術分野を学ぶことができるようにするため、専門基礎科目として「造形表現工房」科目を開講し、その充実を継続的に図った。
- ・学生が社会との接点を持つ教育プログラムとして産学連携事業や地域連携事業を積極的に取り入れた。事業成果が公的機関から表彰されるなど社会から高い評価を受けた。
- ・大学院教育にあつては、カリキュラム改編に合わせ、新たにカリキュラムポリシーを作成した。
- ・大学院生のマネジメント能力を向上させるため、問屋まちスタジオの展覧会や金沢市立病院とのホスピタリティアート・プロジェクトの企画運営など、実践的で高度な教育を推進した。
- ・第2期中期計画に向けて大学院運営委員会の大学院改革ワーキンググループにおいて、大学院改革の基本構想をとりまとめ、結果を学長に答申した。

【成績評価に関する項目】

- ・学生の学修目標設定に資するため、シラバス（授業科目案内）において成績評価基準を明記した。また、成績評価の透明性、客観性を向上させるため、学生の制作課題等を、他専攻の教員を含めた複数の教員により審査、講評する合評会を開催した。
- ・博士学位取得者の社会的信頼性を向上させるため、学位審査基準を明文化するとともに、外部審査員を含む学位審査会を開催し、公開審査を実施した。

(2)教育の実施体制等に関する目標

【教員組織に関する項目】

- ・教員配置計画を策定し、教員の定数管理を適正に行うとともに、毎年、時代の要請と教育内

容の充実を考慮したうえで、公募又は推薦により教員を採用した。

- ・大学院教育に携わる教員の資質を担保するため、大学院教員指導資格審査基準を策定し、採用、昇任に当たって、教員資格審査会による資格審査を実施した。

【学習支援に関する項目】

- ・学生の英語表現能力の向上のため、イングリッシュ・ヘルプセンター（外国人教員による学習支援センター）を開設した。
- ・レーザー加工機、3Dプリンター等の教育機材を整備するとともに、無線LANのアクセスポイントの設置を行うなど、学習環境の充実を図った。

【教育の質の保証に関する項目】

- ・学生に授業アンケートを行い、学生の意見を精査したうえで、教員が授業の改善計画書を作成するとともに、改善計画書を学生が閲覧できるように公開した。
- ・学生の制作課題等の発表に合わせて、他専攻の教員を含めた複数の教員による合評会を開催し、その内容を教員による授業相互評価として活用するとともに、授業研究記録として保管した。
- ・教育の質を向上させるため、卒業生・修了生に対して大学教育全般についてのアンケートを実施し、その結果をホームページ上で公開したほか、教員及び各専攻・科において内容を検証し改善を進めた。
- ・外部評価機関の認証評価において指摘を受けた、学部における履修単位登録できる単位数の上限（49単位）と課程博士の取扱いの見直しについて、改善を実施した。シラバスの精粗については、各専攻・科の教務委員会に所属する教員が中心となって、各科目の到達目標、授業計画、成績評価基準等の記載状況を確認し、さらに教務委員会においてシラバス全体の記載内容を精査した。その結果を、自己点検・評価実施運営会議が検証し、シラバスの精粗の改善に向けて継続的に取り組む体制とした。

(3) 学生への支援に関する目標

【学習環境に関する項目】

- ・学生が自主的に学習に取り組むことができるようにするため、全教員のオフィスアワー（学生の質問、相談等を受ける時間）をシラバスに掲載するとともに、年度当初のガイダンスにおいて、学生に対してオフィスアワーを活用するよう促した。
- ・個展、グループ展の開催について、補助金を交付することで、学生の自主的な学外発表活動を支援、奨励した。

【生活支援に関する項目】

- ・学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、学生相談室に専門の心理カウンセラー、産業カウンセラーの資格を有するインテーカー（初回面接者）、保健担当看護師のほか、各科の教員を配置して、大学生活全般に関する相談に積極的に応じた。
- ・キャンパスハラスメントガイドラインを制定し、年度当初のガイダンスにおいて学生に周知

するとともに、教職員に対してハラスメント研修を実施した。

- ・大学独自の奨学金制度として、経済的理由による修学継続困難者を支援する緊急支援奨学金制度、海外研修活動を支援するワールドワイド奨学金制度を創設した。

【就職支援に関する項目】

- ・学生が適切な進路選択を行うことができるようにするため、図書館に就職や進路に関する資料等を整備したほか、就職支援室において、求人情報に関するデータを学生に提供した。また、キャリアアドバイザーによる就職支援説明会、企業による就職ガイダンスを開催した。
- ・総務省の制度を活用することで、金沢市と学生の県内定着率向上等を目的とする連携協定を締結し、地元企業との就職情報交換会、企業インターンシップ、短期工房派遣実習を実施した。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標(研究に関する目標)

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ・伝統工芸の保存、継承を目的として「平成の百工比照」事業に取り組み、染織、金工、漆工、陶磁の各分野において、全国から製品サンプル、技法工程見本、道具類を収集するとともに、収集した資料の展覧会を開催し、事業の成果を公開した。
- ・芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、国際的な共同研究としてアジア工芸作家等研修支援業務を実施し、ミャンマー、台湾、中国、ブータン、マレーシア等の研究者との技術交流、ワークショップ、講演会を開催した。
- ・文部科学省科学研究費補助金の申請件数の段階的な増加を図り、教員の研究活動を活性化させた。また、学内で申請支援活動の報告会や申請書類の添削会を開催し、教員の申請を支援した。
- ・芸術の振興・普及を促進するため、教員の研究成果を大学紀要、大学広報誌、本学紹介 DVD、成果報告書、ウェブサイト等で公開した。
- ・教員研究発表展を金沢 21 世紀美術館等で毎年開催したほか、中国清華大学美術学院、韓国同徳女子大学等との交流展を開催し、教員の研究成果を公開した。
- ・柳宗理記念デザイン研究所を開設し、柳コレクションの調査研究に取り組むとともに、デザイン教育の場として、展示、講演等で活用した。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ・教員の活動内容や目標設定の状況を把握し負担度や貢献度を評価する目的で、教員評価制度を制定し、各教員が教育、研究、社会活動、大学運営の活動項目の中から目標を設定し、教員自身による一次評価と学長による二次評価を行った。
- ・研究の質を向上させるため、教員の日々の研究活動の成果については学長、理事、教育研究審議会委員がリアルタイムで確認、評価を行ったほか、年度末の研究成果報告書により評価を行い、次年度の適正な研究費の配分に反映させた。
- ・研究活動とその成果に対する点検・評価について、大学の特色となる研究、先端的な研究、公共性のある研究を支援し、また、意欲のある若手の教員の研究を積極的に評価した。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標(その他の目標)

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

- ・企業や公共団体等からの依頼により、産学連携事業や地域連携事業を取り入れた教育プログラムを実践し、実社会の課題を通して経験を重ねる教育を実施した。事業の成果が商品化されたり、公的機関から表彰を受けるなど社会から高い評価を受けた。
- ・金沢市立病院とのホスピタリティアート・プロジェクトを継続的に実施し、医療分野におけるアートの潜在的な可能性について調査研究を進めた。
- ・金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学と包括協定を締結し、教職員及び学生の交流や共同研究、セミナー等の実施に関して連携・協力することとした。
- ・金沢市内の小学校に、大学院生数名を図画工作のティーチングアシスタント（補助指導員）として毎年派遣し、児童の美術への興味、関心を高める一助とした。
- ・地元商店街の空き店舗を改装して、多目的展示スペースである「アートベース石引」を開設した。専攻及び研究室の成果報告会や学生のグループ展のほか、地元商店街と連携したアートイベントを開催し、商店街を含めた地域の活性化に貢献した。

(2) 国際化に関する目標

- ・ニューヨーク州立大学バッファロー校（アメリカ）、ナンシー国立高等美術学校（フランス）及びナント市圏高等美術学校（フランス）と新たに交流協定を締結し、各大学との間で教員及び学生の相互派遣を実施した。また、清華大学美術学院（中国）、ゲント王立アカデミー（ベルギー）及びヴァラント美術学院（スウェーデン）とは交流協定に基づき、教員及び学生の相互派遣を引き続き実施した。
- ・世界を舞台に活躍する海外作家を招聘し、講演会及びワークショップを開催した。高度な知識や技能、最新情報に触れる機会を教員、学生に提供した。
- ・外国人留学生の受入れを拡大するため、金沢大学との包括協定に基づき、入学後に金沢大学の日本語教育プログラムを活用することとした。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 組織運営の改善に関する目標

- ・理事長のリーダーシップを支えるため、3名の理事が社会連携、教務学生、企画総務の各担当を分担し、理事長の業務を補佐する体制を整えた。
- ・社会の教育研究に対する要請や学生の学習需要の変化等に対応するため、自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻会議において、社会や時代の状況に対応する教育内容、教育体制の在り方について検討した。また、保護者会である成美会、同窓会、経営審議会委員から意見を聴く機会を持ったほか、卒業生・修了生に対するアンケートを実施し改善の参考とした。
- ・大学運営や教育研究活動を効果的かつ効率的に推進するため、法人職員採用計画に基づき、5名を採用し市派遣職員から法人採用職員への切り替えを実施した。
- ・大学院専任教員について、その時代やトレンドに応じた人材を柔軟に雇用するため、5年又は6年の任期付き教員として採用した。また、若手研究者の育成を目的として、工芸科にお

いて助教2名を採用した。

- ・教職員の資質向上や教育研究活動の活性化を図るため、職員については、目標管理方式による勤務評定を実施し、また、教員については、教員評価のための目標・自己評価シートを作成し、教員自身による一次評価と、学長による二次評価を実施した。

(2)事務等の効率化・合理化に関する目標

- ・事務手続きや決裁権限の見直しを図るとともに、ホームページの修正・更新、大学案内パンフレットの制作等の定型的業務や専門的業務について外部委託を実施した。
- ・学内での監査機能を担保するため、事務局のほかに理事会と教育研究審議会を加えた監査体制とした。また、外部の公認会計士による監査や会計指導を受けることにより、適正な財務事務を執行した。

5 財務内容の改善に関する目標

(1)外部研究資金、寄附金、その他の自己収入の増加に関する目標

- ・財政基盤の強化を図るため、文部科学省科学研究費補助金、三谷研究開発支援財団の研究費等の申請件数の増加に毎年取り組み、堅調に推移した。
- ・金沢美術工芸大学教育研究基金を創設し、教職員、市民、企業から寄附金を受け付けた。また、「かなびサポーター」制度を創設し、市民が大学を支援しやすい環境を整えた。

(2)経費の効率化に関する目標

- ・総人件費の適正化を図り教職員の定数管理と適正配置を計画的に行うため、教員については教員配置計画を策定し、毎年、退職教員の後任を採用した。また、職員については法人職員採用計画に基づき、市派遣職員から法人採用職員への切り替えを実施した。
- ・人件費以外の経費の効率化を図るため、インターネットによる物品調達を開始したほか、重複投資を防ぐため、大型備品については学内での共同利用を推進した。

(3)資産の運用管理の改善に関する目標

- ・資産の適正な管理を行うため、資金計画表を作成し、資金に余裕のある月について、定期預金により安全かつ確実な資金運用を行った。
- ・大学が所有する美術品について、学内外の展覧会等で公開し活用を図った。また、全所蔵品のデータベースを作成し、ホームページ上で公開した。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1)評価の充実に関する目標

- ・自己点検・評価実施運営会議に教育研究審議会、教授会双方から委員を選出し、全学的な点検・評価体制を整備した。
- ・自己点検・評価実施運営会議が中心となって自己点検・評価報告書を作成し、外部評価機関の現地調査を経て、認証評価を受けた。

(2) 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ・学内情報の公開に関する基本方針を制定し、各部門からの情報は、広報室に集約して一元的に管理する体制を整備した。
- ・大学のVI（ビジュアル・アイデンティティ）計画を策定のうえ、各種広報媒体に順次導入し広報活動に反映させた。
- ・ホームページにより大学の活動を発信したほか、毎年、教員研究発表展を金沢 21 世紀美術館等で開催し、教員の研究活動を公開した。
- ・東京、大阪において、社会連携事業の成果を中心とした展示会を開催し、事業の成果を広く公開することにより、大学のブランドイメージの向上を図った。
- ・柳宗理記念デザイン研究所にて、デザインを中心としたセミナーや展覧会を開催し、大学のブランドイメージの向上を図った。

7 その他業務運営に関する重要目標

(1) 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ・施設設備を適正に管理するため施設台帳を整備し、毎年の修繕履歴等を記載するとともに、中期修繕計画表を作成し、毎年の予算要求に併せて見直しを図った。
- ・学内に新キャンパス基本構想検討委員会を発足させ、その検討結果を「金沢美術工芸大学新キャンパス構想」としてとりまとめ、設立団体の長（市長）に報告した。

(2) 大学支援組織等との連携強化に関する目標

- ・多くの保護者が大学を訪れる美大祭の開催に合わせて、保護者会である成美会との情報交換の場を設け、大学の近況報告や教員との意見交換を行い、大学への理解と支援を得た。
- ・大学と同窓会との共同により、東京・銀座、金沢、ニューヨークの3都市で大展覧会を同時開催した。

(3) 安全管理に関する目標

- ・危機管理体制の明確化を図るため、危機管理規程、危機管理基本マニュアル及び震災対応マニュアルを策定し、教職員と学生が参加する全学的な防災訓練を毎年度実施した。
- ・衛生委員会を設置し、職場巡視を行うとともに、健康診断や過重労働対策、ストレスチェック導入などについて討議し、職場の安全・衛生管理を図った。
- ・外部講師を招いて教職員を対象にメンタルヘルス研修を実施した。

(4) 人権擁護及び法令遵守に関する目標

- ・金沢市が主催する公務員倫理・人権研修に職員を参加させた。
- ・外部講師を招いて教職員を対象にハラスメント研修を実施した。また、キャンパスハラスメントガイドラインを制定し、教職員、学生に周知した。
- ・保有個人情報の保護に関する規程を制定し、情報保護管理者等の配置により適切な個人情報の管理を行う体制を構築した。